

研究員 の眼

旺盛な米国株式への投資意欲 ～2020年9月の投信動向～

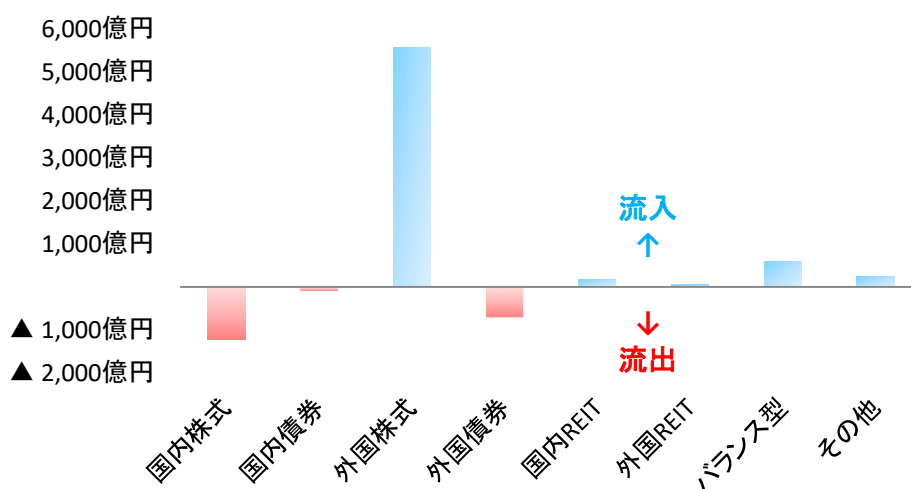
金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

米国株式ファンドの販売が好調

2020年9月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流入をみると、外国株式に大規模な資金流入があり、ファンド全体で4,600億円の資金流入があった【図表1】。この9月の資金流入は8月の1,100億円の資金流入を大きく上回り、2020年に入ってから最大の資金流入であった7月の5,100億円に迫った。

大規模な資金流入があった外国株式では、流入金額が9月は5,600億円と8月の3,400億円から2,000億円以上増加した。9月も7、8月と同様に、9月に新規設定された外国株式ファンド（赤太字）や7、8月に新規設定された外国株式ファンド（緑太字）への資金流入が目立った【図表2】。ただ、9月はこのような新設ファンドに加えて、米国株式ファンドも人気であった。9月に資金流入が大きかったファンド上位10本をみると、「投資のソムリエ」以外の9本が外国株式ファンドであり、うち新設ファンド（赤太字、緑太字）が4本、米国株式ファンド（青太字）が4本であった。

【図表1】2020年9月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流入



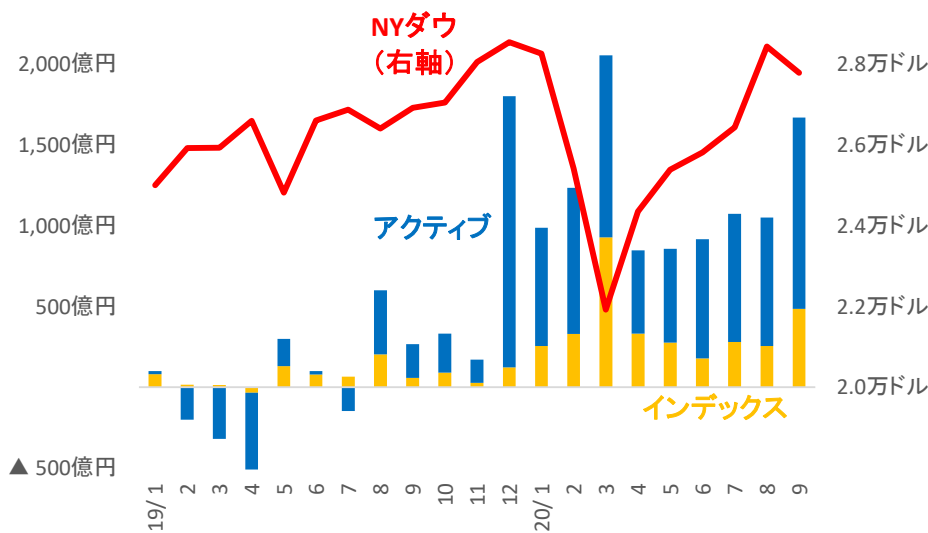
（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類

【図表2】 2020年9月の推計純流入ランキング

順位	ファンド名	運用会社	9月の推計純流入	純資産 9月末時点
1位	グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	827 億円	6,029 億円
2位	ティール・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド Bコース ヘッジ無	ティール・ロウ・プライス・ジャパン	617 億円	621 億円
3位	ティール・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド Aコース ヘッジ有	ティール・ロウ・プライス・ジャパン	499 億円	500 億円
4位	デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド	日興アセットマネジメント	485 億円	2,144 億円
5位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	381 億円	5,783 億円
6位	投資のソムリエ	アセットマネジメントOne	366 億円	3,078 億円
7位	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	303 億円	5,781 億円
8位	テトラ・エクイティ	三井住友DSアセットマネジメント	279 億円	1,178 億円
9位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信C毎月(ヘッジあり)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	201 億円	2,687 億円
10位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	173 億円	1,598 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く

【図表3】 米国株式ファンドの資金流入の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。2020年9月のみ推計値

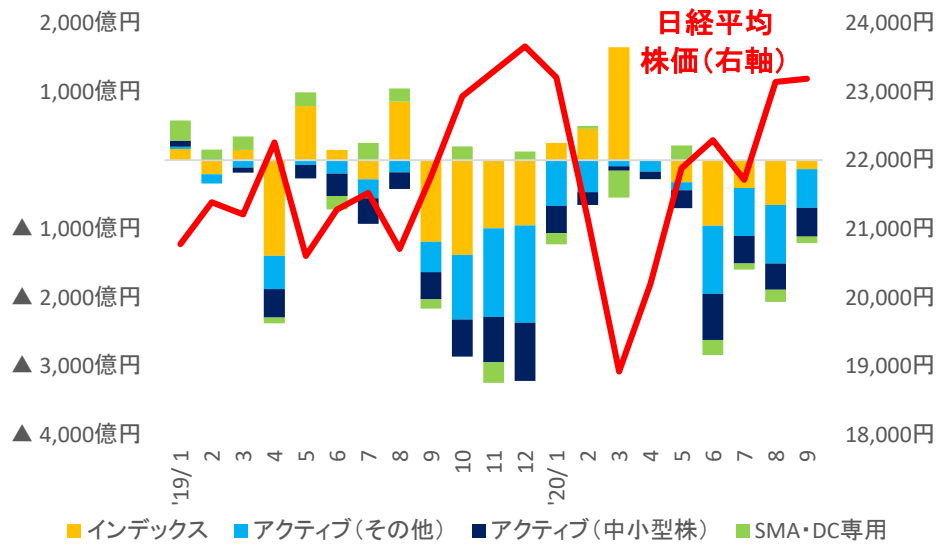
実際に先ほどの4本(【図表2】青太字)を含む米国株式ファンド全体には、9月に1,700億円の資金流入があり、今年最大の資金流入であった3月の2,100億円に迫る規模であった【図表3】。米国株式ファンドのタイプ別流入金額は、アクティブ・ファンド(青棒)で1,200億円、インデックス・ファンド(黄棒)で500億円であり、ともに8月から増加していた。

このように9月に米国株式ファンドの販売が総じて好調だったのは、米国株式の下落を待っていた投資家が多かったためだと思われる。米国株式は4月以降ほぼ一本調子で上昇し、また上昇が急ピッチであった。米国株式ファンドには昨年12月以降、大規模な資金流入が続いているが、米国株式への関心はあるものの高値警戒感などから投資することを控えていた投資家も多かったと推察される。それが9月に米国株式が徐々に下落し、これまで様子をうかがっていた投資家が米国株式ファンドを購入もしくは買い増したため、9月は資金流入が膨らんだのではないだろうか。

国内株式ファンドの売却は一巡か

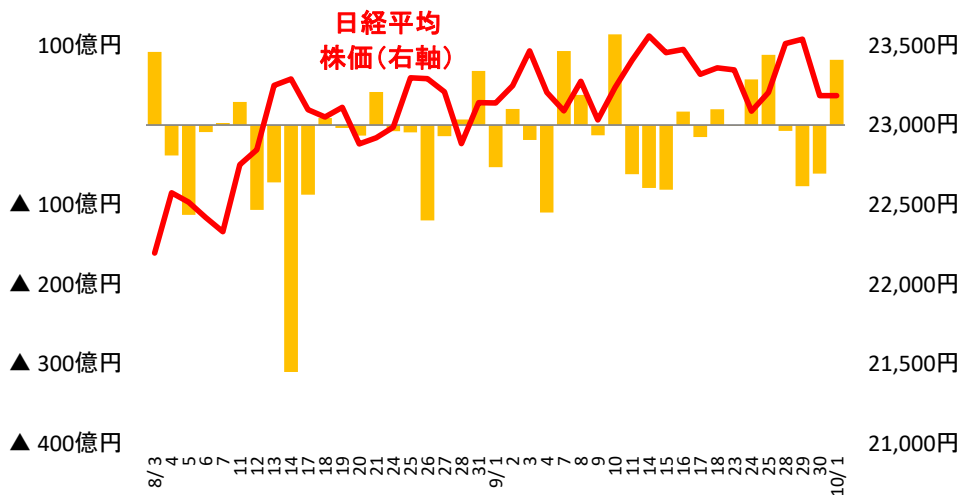
国内株式からは9月に1,200億円ほど資金流出したが、8月の2,100億円の資金流出と比べると鈍化した。9月は日経平均株価が2万3,000円から2万3,500円台で推移するなど、国内株式はもみ合う展開となったことが影響したと思われる。ただ、日経平均株価が2万2,000円を回復した6月に流出金額はピークを迎え、それ以降、流出は減少基調であることから、利益確定売りが出にくい市場環境であったことだけでなく、売却自体も一巡してきているのかもしれない【図表4】。

【図表4】国内株式ファンドの資金流入の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。2020年9月のみ推計値

【図表5】国内株式インデックス・ファンドの推計資金流入の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。SMA 専用、DC 専用ファンドは除く

国内株式の中で資金流出の鈍化が顕著であったのが、インデックス・ファンド(黄棒)であった【図表4】。8月に700億円に迫っていた資金流出が、9月は100億円強の資金流出に収まっていた。国内株式のインデックス・ファンドの資金動向を日次でも見て、8月と9月で投資家の行動がやや変化してきていることが確認できる【図表5】。

国内株式のインデックス・ファンドは、9月も8月と同様に日経平均株価が2万3,400円を超えた翌営業日には100億円前後の資金流出があった。一方、日経平均株価が下落し2万3,000円に迫った翌営業日には少額ではあったが資金流入があり、8月と比べて資金流入している日が多かった。8月中は日経平均株価が2万3,000円を下回らないと資金流入があまりなかったことを踏まえると、9月に入ってから国内株式に対する投資家の見方がやや楽観的になってきている可能性があるといえよう。

国内株式アクティブ・ファンドは見直されてもいいのでは

国内株式のアクティブ・ファンドでも、9月は1,000億円の資金流出と8月の1,200億円の資金流出からやや鈍化した。ただ、中小型株アクティブ・ファンド（紺棒）に限ると9月は400億円超の資金流出と8月（380億円）からやや増加した【図表4】。9月は国内株式全体でみると株価はほぼ横ばいであったが中小型株市場は堅調で、9月に10%以上も（分配金込みの）基準価格が上昇する中小型株アクティブ・ファンド（青太字）もあった【図表6】。そのため、国内中小型株アクティブ・ファンドでは利益確定に伴う売却が膨らんだのかもしれない。

国内中小型株アクティブ・ファンドは2019年3月から資金流出が続いており、2019年3月から2020年9月までの流出金額は累計で7,000億円に迫っている。2020年9月末時点での国内中小型株アクティブ・ファンド全体の純資産総額が1.4兆円であるため、約1年半で純資産総額の3分の1程度が売却されたことになる。

その一方で、9月に好調だった国内中小型株アクティブ・ファンド（青太字）の過去1年の収益率はすべて20%を超え、中には100%に迫っているファンドもあった【図表6】。日経平均株価の過去1年間の上昇率が7%を下回っていることから、それらのファンドはかなりの好成績であったといえよう。つまり、足元の9月単月だけでなく1年通じても高パフォーマンスの国内中小型株アクティブ・ファンドがあったことが分かる。

このように高パフォーマンスを上げている国内株式のアクティブ・ファンドがあることを踏まえると、ここ最近ではアクティブ、インデックス問わず外国株式に投資家の人気が集中しているが、国内株式のアクティブ・ファンド、特に中小型株アクティブ・ファンドはもう少し投資家から見直されてもいいのではないだろうか。

【図表6】 2020年9月の高パフォーマンス・ランキング

順位	ファンド名	運用会社	9月の収益率	過去1年収益率	純資産 9月末時点
1位	IPOリサーチ・オープン	三菱UFJ国際投信	11.7%	33.7%	25億円
2位	社会課題解決応援ファンド	大和アセットマネジメント	11.3%	31.9%	23億円
3位	次世代ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント	10.9%	26.1%	46億円
4位	ダイワ新成長株主還元株ファンド - 株主の微笑み-	大和アセットマネジメント	10.8%	37.2%	98億円
5位	インベスコ・ジャパン・ニューフロンティア・オープン	インベスコ・アセット・マネジメント	10.7%	23.3%	23億円
6位	新世代成長株ファンド	大和アセットマネジメント	10.7%	51.3%	132億円
7位	企業価値成長小型株ファンド	アセットマネジメントOne	10.6%	79.3%	306億円
8位	DIAM新興市場日本株ファンド	アセットマネジメントOne	10.5%	91.2%	168億円
9位	ダイワ新興企業株ファンド	大和アセットマネジメント	10.3%	50.7%	65億円
10位	MHAM新興成長株オープン	アセットマネジメントOne	10.2%	38.2%	470億円

（資料）Morningstar Direct より作成。2020年9月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

（ご注意）当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。